

地域経済

観光戦略の新たな取り組みを追う



熊本城天守閣で展示物の説明を聞くKTX熊本視察チーム一行

目韓高速鉄道つなぎ、韓国誘客強化狙う

KTX京釜線11月全線開業、九州新幹線とリンクした訪熊旅行商品造成を促進



▲熊本市真町のフードパル熊本内の熊本ワインでは熊本産ワインを試飲した



▲熊本城はやはり熊本観光に欠かせないスポット。3月には「城彩苑」もオープンする



▲鞠智城公園を視察する一行



▲本丸御殿では目を引いた障壁画を盛んに写真撮影

県と県観光連盟は、9月2日から2泊3日の日程で、韓国鉄道公社や観光関係者12人を招き、県内観光地を案内した。狙いはKTXと九州新幹線を利用した韓国誘客。一行は、山鹿、菊地、阿蘇、人吉、熊本市と巡り、韓国人観光客に人気のある温泉や阿蘇、熊本城やフードパル熊本などを視察。SL人吉にも乗車した。視察には韓国誘客に詳しい県観光連盟の大田黒隆誘致部長と韓国語が堪能な県観光交流国際課の栗谷美奈子さんがピタリと同行し熊本観光をアピールした。九州新幹線の全線開業と韓国の高速鉄道全線開業による移動時間の短縮は、韓国誘客に新たな局面をもたらすかも知れない。



「アジアホリデーinくまもと」のオープニングイベントとして9月18日に開かれた「アジアシアター」で、色鮮やかなチマ・チョゴリ姿で韓国伝統舞踏を披露する在日韓国人舞踊グループ（崇城大学市民ホール）

アジアマインド 醸成スタート

熊本市、東アジア戦略の一環で「アジアホリデーinくまもと」



▲（写真左から）熊本市の生まれで東京大学大学院教授の姜尚中さん、モデルのはなさん、母親が熊本出身の映画監督崔洋一さんによる「東アジアの特徴と文化を学ぶ」と題するトークショーもあつた



▲当日はアジア各国の舞踏が披露され雰囲気盛り上げた。写真上から、タイ国立芸術学校の卒業生によるタイ民族舞踊「多孔子の里」による中国獅子舞、在日韓国人舞踊グループの柳会による「農楽」



▲ステージに拍手を送る観客。当日は抽選で選ばれた約1200人が参加した

東アジアの文化を紹介する「アジアホリデーinくまもと」のオープニングイベント「アジアシアター」が9月18日、崇城大学市民ホールで開かれ、約1200人の参加者が東アジアの民族舞踊やトークショーなどを楽しんだ。「東アジアから選ばれる都市」を目標に掲げた「東アジア戦略」を3月にまとめた熊本市が、市民に東アジアを身近に感じてもらおうと初めて企画した。「アジアシアター」では幸山政史熊本市長が、「今後、アジアを視野に様々な展開を計画している。皆さんも積極的に参加して欲しい」と挨拶。続いて、タイ国立芸術学校卒業生によるタイ民族舞踊、在日韓国人舞踊グループによる韓国舞踊などが披露された。

新幹線開業にらみ改装相次ぐ

熊本市内ホテル

新幹線対応着々、開業追い風に集客期待



▲約1億3000万円をかけ空調システムを一新した熊本ホテルキャッスルの主宴会場「キャッスルホール」に立つ斉藤隆士社長



▲新装になった「STRINGS」の前の立つ熊本日空ホテルニューカイスの古賀哲馬常務



▲リニューアルを終え「玉樹」から「STRINGS（ストリングス）」となった熊本全日空ホテルニューカイスの主要会場。茶系統で統一され落ち着いた雰囲気を出している



▲リニューアルしたホテルニューオータニ熊本のガーデンチャペルの内部。向壁面に窓を新設、入口も木製からクリアガラス調の扉に変更するなど明るいチャペルとなった



▲ホテルニューオータニ熊本の森大介社長（右）と藤澤尚隆総料理長。後方は8月にリニューアルしたチャペル

九州新幹線全線開業まで半年と迫った熊本市でホテルのリニューアルが相次いでいる。熊本ホテルキャッスル（斉藤隆士社長）では、約1億3000万円をかけて2階の主宴会場「キャッスルホール」の空調システムを一新。宴会場ロビーの喫煙スペースは分離型の喫煙ルームに。熊本城側に面しながら未利用だった部屋を食事でもできる小宴会室に改装した。一連のリニューアル費用は約2億円。熊本全日空ホテルニューカイス（櫻井孝一社長）では開業を見据え昨年、客室のリニューアルを実施。今年9月上旬、競争が激化しているプライダル対策を含め2階の主宴会場「玉樹」をリニューアル、「STRINGS」としてオープン。肥後つばきと水の波紋を全面に散りばめたじゅうたん、木質感を演出した壁面など、全体を茶系統でまとめ落ち着いた雰囲気仕上げた。JR熊本駅に隣接するホテルニューオータニ熊本（森大介社長）では8月、チャペルのリニューアルと同時に主宴会場「鳳凰」など5会場の壁紙を新調した。また11月には日本料理「千羽鶴」など地下の飲食部門の改装も予定しており、新幹線全線開業を追い風にしたと意欲を見せている。